

2014年度「交通経済論」採点結果

例年と同様、問1に60点、問2に40点の100点満点としました。受験者の採点結果及び成績分布は下にまとめましたので、参照してください。

問題ごとの配点ですが、問1は1-1、1-2、1-3、1-5ではそれぞれ10点を、1-4では20点を満点として採点しました。1-3において、「時間に対して旅客ごとに感じる重要性が異なっているから」といった同義反復的な答案や、ただ「旅客ごとに選好（効用関数の形状）が異なるから」としたような、時間に対する言及を行っていないような答案には点数を与えませんでした。1-4については選択が無差別となる旅客の時間価値6000(円/時間)が求められていれば10点、1-5については運賃変更後の航空に対する旅客需要1347(万人)が求められていれば5点をそれぞれ部分点として与えました。解答では割り切れない場合の数値は概数で示しましたが、分数表記の場合や誤差が一定程度に収まっているような概数の場合も同じ点数を与え、1-5の需要の運賃弾力性に関しては絶対値で求めている場合も同じ点数を与えました。また全体にわたって計算ミス等による解答の間違いは解答過程を加味して部分点を与えました。問1の計算問題は、全体的によく出来ていたと思います。

問2は、2-1、2-2とも、それぞれ20点満点です。2-1については、問題に規模の経済と書いているので、それに関わる市場の失敗である自然独占について書くべきです。2-2では、限界費用料金が最適であること、次善の手段としての規制は、価格＝平均費用とすべきであることを書けば十分です。

例年に比べ、今年度は受験者数が少なく合格率が高くなりました。授業に出て勉強した人だけが受験したのでしょうか。

採点結果

	平均点(点)	受験者合格率(%)
全体	63.94	77.55
3回生	65.14	79.31
4回生以上	62.20	75.00

成績分布

